



# 財務会計 I の指導上のポイントと留意点

～教科書の変更・改善点を中心に～

横浜市立横浜商業高等学校教諭 粕谷 和生

今回は、ややもすると見落とししてしまいがちな指導上のポイントと留意点を取り上げます。

## Q 1 財務会計の機能

新学習指導要領解説では、新しい内容として「財務会計の機能」と「財務会計の役割」が挙げられています。機能と役割の区別は、なかなか難しいのですが、どのように指導すればよいのでしょうか？

確かに機能と役割の意味は似ています。そこで、新しい教科書では、次のように整理して記述しています。すなわち、財務会計の機能＝利害調整機能＋情報提供機能とし、財務会計の役割＝会計責任の遂行としました。

財務会計の機能のうち、利害調整機能は特に重要です。近年は、情報提供機能ばかりが重視される傾向にありますが、これは、連結財務諸表を前提とした話しであって、財務会計 I は個別財務諸表の学習が中心ですから、利害調整機能を重点的に指導する必要があります。その際、高校財務会計 I p.10 や新財務会計 I p.10 のように具体例を用いて説明することがポイントです。

## Q 2 会計の歴史

新学習指導要領では、「会計の歴史」が学習内容から削除されました。指導の必要はないのでしょうか？

検定試験には「会計の歴史」は出題されませんが、できるだけ時間を作って指導したいところです。なぜなら、近年の会計の激変ぶりを理解するためには是非とも必要だからです。

会計の特質として「会計の時代性・国家性」（安藤英義著『簿記会計の研究』中央経済社 38 頁）ということが言われます。これは、会計は時代によって、さらに国によって異なるという意味です。今日では、会計基準が国際的に統一される方向で進

んでいますが、その背景や進み方などを理解するためには、歴史をみるのが大切です。新財務会計 I は 3 ページ、高校財務会計 I は 2 ページを割いて解説しています。

## Q 3 資産・負債・時価などの意味

新しい教科書では、資産および負債の意味や時価の意味などが、これまでの教科書の説明文よりも増えています。なぜでしょうか？

従前の教科書では、資産の意味については「企業の経営活動に役立つ財貨や債権などを資産という。」と記述していました。これは、資産の中身を列挙して資産の意味を説明するやり方です。

新しい教科書では、この説明文の後半を「経済的資源」という用語で括ります。すなわち、「企業の経営活動に役立つ財貨や債権などの経済的資源を資産という。」とします。

この「経済的資源」は、わが国の『財務会計の概念フレームワーク』で使われている用語です。これにより資産の意味を、一般化して示すことができます。ただし、繰延資産については「経済的資源」といえるかどうかは、議論のあるところですので、新しい教科書では、ごく簡単に扱っています。なお、資産に合わせて負債の意味も見直しました。

次に時価の意味ですが、これについても従来は資産の記述と同じやり方で、市場価格や再調達原価など時価の例を挙げて、その意味を説明してきました。それでも特に支障がなかったのは、時価が絡むのは主として有価証券と商品で、前者は市場価格で、後者は再調達原価で説明できたからです。

しかし、今日では、従来のような説明では難しい場面があります。例えば、「保証債務の時価は手形額面金額の 1 % とする」という場合の時価や「時価を把握することがきわめて困難な株式」という場合の時価です。これらの時価は、市場価格や再調達原

価のように観察できる時価ではありません。

そこで新財務会計 I p.30 では、時価の意味を次のように記述しています。「時価とは、公正な評価額をいい、原則として、市場価格にもとづく価額をいう。市場価格がない場合には、合理的に算定された価額を時価とする。」

また、高校財務会計 I p.29 では「時価には、市場価格にもとづいて算定されるもののほか、見積もりなどによって合理的に算定されるものも含まれる。」

以上のように、観察できる時価がない場合は、「なんとかして時価を算定せよ」というのが、今日の会計基準の要請であり、時価の意味です。

#### Q4 満期保有目的の債券の期末評価

新しい教科書では、満期保有目的の債券の評価については、「償却原価法による」と一言ですませています。なぜ、このようになったのでしょうか？

これまでの表現は、「取得価額と額面金額との差額については、均等額を利息受け取りのつと帳簿価額に加算する方法」でした。これを新しい教科書では「償却原価法による」と短い表現に変更しています。

これは、金融商品会計基準の表記に従った変更です。そしてこの変更に伴い、目立たないもう一つの変更点があります。それは、帳簿価額に加算または減算するのは、期末だけという点です。これまでは、「利息受け取りのつと」でしたから、年2回やっていました。しかし、「償却原価法」は評価方法ですから、期末に1回だけ適用するというのが一般的です。

以上のことに留意して、新財務会計 I の p.76 例 1 と高校財務会計 I の p.72 例 1 をご覧下さい。説明文が従前のものより、さらにすっきりしていることが、おわかりいただけると思います。

#### Q5 純資産の部

これまでの教科書は、会社法が旧指導要領の途中で施行されたために「純資産の部は株主資本だけ」という前提で書かれていました。これが新しい教科書では、どのようなになったのでしょうか？

会社法が施行されて8年が経ちましたので、新しい教科書では、会社法が示す本来的な純資産の部を学習する必要があります。つまり、「純資産の部は株主資本だけ」という前提は外さなければなりません。したがって、純資産（株主資本）などという表

記は、新しい教科書では、避けるべきでしょう。

また従来から、その他有価証券評価差額金の期末における仕訳は教科書に載っていましたが、純資産の部の表示に関する例題はありませんでした。

新しい教科書では純資産の部を、Ⅰ株主資本、Ⅱ評価・換算差額等、Ⅲ新株予約権の三区分別にしてあります。こうすることにより、商業教育資料93号「資本は純資産に置き換わったのか？」で問題にした資本と純資産に関する誤解も解消できます。

#### Q6 収益・費用の認識と測定基準

新学習指導要領では、「収益・費用の認識と測定」が明記されました。ここは、どのような内容を指導すればよいのでしょうか？

旧指導要領では「損益計算の意味と基準」でしたから、新指導要領はかなり踏み込んでいます。しかも、従来から生徒にとっては難解であるという理由から、教科書では使用を避けてきた「認識」という語を用いています。

先ず、収益・費用の認識ですが、これは「収益・費用をいつ計上するか」という易しい言い方に直して、従来どおり発生主義・実現主義・現金主義を指導します。この際、発生主義の説明で「現金の収支に関係なく云々」と書いている本がありますが、これは誤りで「現金の収支の時点に関係なく」というように「時点に」と限定を加えなければなりません。「現金の収支に関係なく」と言ってしまうのは、収益は収入額に基づき測定し、費用は支出額に基づき測定するという「収支額基準」を説明できなくなってしまう。

次に収益・費用の測定については、「収益・費用の金額をいくらで計上するかを決定すること」と言い換えて「収支額基準」を説明します。このテーマはこれまで、高校ではほとんど指導してきませんでしたが、本来はとても重要なところです。新財務会計 I では、「収益・費用の測定基準」という項を新たに設け、企業会計原則の損益計算書原則 1A 「すべての費用及び収益は、その支出及び収入に基づいて計上し、その発生した期間に正しく割当てられるように処理しなければならない」に従って、丁寧に解説しています。



# ビジネス情報の指導上のポイントと留意点

～教科書の変更・改善点を中心に～

埼玉県立新座総合技術高等学校教諭 並木 通男

新学習指導要領に基づく「ビジネス情報」が来年度からスタートします。今回のQファイルでは、新しい「ビジネス情報」の教科書における変更点とねらい、指導上のポイントと留意点を整理してみましょう。

## Q 1 改訂のポイント

今回の改訂のポイントを簡単に整理してください。

新しい「ビジネス情報」では、次のような改訂がされました。

- (1) 「情報通信ネットワークの導入や運用」をより実務的に扱い、有線・無線LANによるオフィス環境を整備する、技術的な能力の育成を目的としており、サーバの設定なども対象にしています。
- (2) 経営戦略の立案を前提にした、販売情報と財務情報の分析と活用に関する内容を、新科目「ビジネス情報管理」に移行し、実務的なOR（オペレーションズリサーチ）の分野を幅広く扱っています。
- (3) データベースソフトウェアの活用に関する内容が「情報処理」から削除され、「ビジネス情報」に移行されました。そのため、データベースに関しては、ビジネス情報で基礎から学習することになりました。

## Q 2 ネットワーク指導の環境

学校の制限されたシステム環境では、ネットワーク構築などの実習ができません。どのような方法がありますか。

ネットワークの導入実習では、実際の操作が難しい面があります。

LANの構築では、実習に支障のない範囲で、ケーブルを抜いて形状を確認させ、使用していないハブなどに接続させて説明するなどの方法があります。

IPアドレスの設定では、管理者である教員の画面を提示し、生徒にはコマンドプロンプトを立ち上げ、ipconfig等のコマンドを入力させ、アドレスの設定状況を確認させることができます。

例) `C:\>ipconfig`

コマンド実行すると、自分のパソコンに割り当てられているIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定情報が表示されます。

ブラウザのURLに直接アドレスを入力して、目的のWebページを表示させ、IPアドレスとドメインの関係を説明することもできます。

例) 124.83.187.140 → Yahooのサイト

nslookup コマンドで、IPアドレスとドメインを調べることができます。こうしたアドレスやドメインは、IPアドレスとドメインを検索するサイトがありますので、そちらも利用してください。また、生徒のスマートフォンの設定画面を利用して、各種のアドレスを確認させることも一つでしょう。

各校のシステムの環境にもよりますが、フリーソフトのサーバOSをインストールして、イントラネット上での設定を学習することが可能な場合もあります。

その他に、セキュリティポリシーの分野では、ユーザIDやパスワードの具体的な作成方法など、アカウントポリシーについて取り扱うことも大切です。

## Q 3 表計算ソフトウェアの指導

表計算ソフトウェアの活用では、具体的にどのような指導が考えられますか？

学習指導要領の項目でみてみましょう。

ア ビジネス計算とデータの集計・分析

マルチシートの利用やグループ集計機能、ピボットテーブルの利用などが一般的です。グループ集計やピボットでは、SUMIF関数との対比で学習させるなど応用力を高める指導が望まれます。

イ オペレーションズリサーチの基礎

今回の改訂では、ORの基礎が充実しました。経営数学で取り扱っていた内容を、エクセルで処理させることで、検証しながら理解を深めることができます。

#### ウ 手続の自動化

表計算のプログラミング機能を利用して、自動化の技法を習得させるとあります。ここでは、マクロの記録機能を利用して、メニューから一連の処理を自動化する概念を習得させるとよいでしょう。

#### Q 4 データベースソフトウェアの活用

データベースソフトウェアの活用では、具体的にどのような指導が考えられますか？

データベースを学習するときに、検定の用語やSQLの問題を机上中心に指導すると、どうしても概念的になってしまい、身近なものとして理解してもらえません。

データベースの導入段階では、Web上での検索を体験させ、さまざまなポータルサイトや、実際のネットショップを利用して、商品検索から購入までの流れを模擬的に体験させると、データベースが生活に密着したものとして捉えてもらえます。

基本的なソフトの利用を学習した後に、Webページを意識した題材を実習するなどすると、検索処理や表示・印刷などの基本的な流れが理解できるのではないのでしょうか。

SQLの指導では、基礎的な文法を、実習を交えて学習します。複雑なクエリを作成するときには、SQLの記述の方が理解しやすい場合もあります。SQLは実習を伴う学習が検定対策にも有効でしょう。

#### Q 5 アルゴリズムの指導

ビジネス情報でアルゴリズムを学習するねらいはどこにあるのでしょうか？

アルゴリズムで扱う範囲は、制御構造の種類及び代入、演算、条件判定、繰り返し処理、配列の利用など基礎的なアルゴリズムです。

- (1) 表計算やデータベースソフトウェアのマクロ機能（具体的にはVBA）のコード記述において、プログラミングに関する基礎知識が必要とされるためです。ただ、プログラミングとは異なり、表計算を操作するマクロの考え方は、ワークシートの操作を主眼に置いています。
- (2) データベースでは、フォームやレポートの操作、簡易な条件判定等、基礎的な手法を理解することで充分対応できると考えます。マクロの登録

では、オブジェクトと手続きの関連した処理の流れが主眼になります。

#### Q 6 システム開発の指導

表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアの簡易なビジネス情報システムの開発に関する実習を取り入れるようにとありますが、どの程度までの技能を目標としていますか？

開発では、学科の特色に応じて、いずれか1項目を選択して扱うことができるとしています。

開発に際して、表計算では、各ワークシートのレイアウト設計、VBAの基本的な文法の習得、マクロの登録によるシステム化の手順で進める方法が理解しやすいでしょう。

データベースでは、フォームの流れを基本的な手順をもとに設計書として書かせ、それらのレイアウトに出力するデータを整理することで、システムに必要なデータが整理されます。テーブル設計からリレーションシップの設定、データ検索手続きと出力の関係を整理し、マクロを作成してシステム化します。時間に余裕があるときは、同じ題材で両方のソフトを利用して開発することで、表計算とデータベースが融合したシステムまで発展することも可能でしょう。

#### Q 7 検定対策

検定試験では目標をどこにおいていますか？

「ビジネス情報」の教科書で扱う内容は、おもに全商情報処理部門1級が到達の目安になると考えられます。今回の検定基準の改定で実技試験が廃止されました。3～4単位の設定では、検定用語の解説のみではなく、常にソフトウェアを操作しながら用語の解説をするなど、表計算であれば、実技の裏付けがあって初めて筆記試験に対応できますので、2時間に1問程度の実習を目標に、バランスよく学習計画を立てると良いでしょう。

データベースのSQL実習では、基本文法から応用まで3～4時間程度の実習で充分と考えられます。

国家試験のITパスポート試験に関しては、表計算やデータベース（SQLを除く）、ストラテジ系のORやビジネス計算分野が対応しています。

最後に、IPAから情報処理技術者試験の出題構成の見直しについて、概要が公表されましたので参考にしてください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20131029.html>



# ビジネス経済の指導上のポイントと留意点

～教科書の変更・改善点を中心に～

神奈川県立麻生総合高等学校教諭 岩村 夏樹

## ①実は身近な「ビジネス経済」

新科目「ビジネス経済」は新学習指導要領・教科商業における他の改編科目のような内容変更や名称変更ではなく、新しい科目の誕生を印象づかせる。本来大学の経済学部などで学ぶ「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」を高校生に教えようという意欲的な内容を盛り込んでおり、指導上の不安や戸惑いが先生方にも生じうるのではないだろうか。

指導対象が「経済」ではなく「経済“学”」ということで、“学”の文字を含んでいることから、この科目は単なる知識提供・記憶型の授業を求めているのではなく、社会現象を観察する際の「考え方」を理解させ習得させるという点が斬新であり、授業には工夫が必要と思われる。

とはいえ、ビジネス経済で扱う内容は、実は普段身の回りで起こっている購買行動などをモデルとして考える内容が多く、学習内容の「身近さ」という点においては「簿記」や「ビジネス基礎」よりも、よほど生徒にはイメージしやすいものである。私たち指導者側も肩肘張らずに、日常生活から学習内容を探っていく手法をとっていくことが生徒の興味を惹く授業につながるのではないだろうか。

## ②指導展開案（実際の教室を想定して）

本稿では実教出版「ビジネス経済」の教科書を使用した実際の授業現場を想定し、具体的な指導展開をいくつか提案申し上げたい。

### 指導展開案①全体像のつかみかた

個別の内容に入る前に、ガイダンスの時間をとり、生徒に興味を持たせる時間をとる必要がある。教科書の見開き「ビジネス経済への招待状」を活用したい。普段の私たちの購買行動から市場の存在に気づき、「需要」「供給」から「価格」が決まっていく過程を学ぶ「ミクロ経済学」、より広い視点から国としての収支、GDPや税金、失業の問題、経済成長や政策などを学ぶ「マクロ経済学」、それぞれの目的とするところが見開きで概観できる。

「ビジネス基礎」などで教科商業についてある程度の基礎理解を持っている生徒を想定した科目だが、それ

でも初見の用語は数多いはずである。「深い理解は後でいいよ。」「経済には大きく2つの見方がある、それをこれから勉強していくんだよ。」と生徒に理解させたい。

また裏表紙・背表紙含んだカラーページには興味を引く内容がいくつか記述してある。「四人のジレンマ」で紹介された「ゲーム理論」などは日常生活や企業の販売戦略などで広く利用されるものであると同時に、高校生にも十分に理解可能で興味を引く内容だ。「ビジネス経済って面白そうだな」「難しいかもしれないけど、理解してみたいな」という学習動機を生み出せばガイダンスは十分だ。

### 指導展開案②「市場」と「財」の理解のさせ方

手順としては身の回りの商品（例えば、「今みんなが持っている文房具」）やサービスをビジネス経済では「財」として定義し、その資源配分をいかに効率的に行うかという観点から「市場」の役割を紹介していく方法が考えられる。

「『財』って教科書に載ってるもの以外でどんな例が考えられるかな?」という発問から「財」という言葉は様々なものを含む広い考え方である点を共有する。生徒が挙げる大体の商品やサービスは「財」として説明ができるはずであり、学習対象が身近なものであることを強調する。

その上で、それらの配分過程において売り手と買い手の様々な希望や思惑から「価格」が決まっていくという点を解説する。この理解は需要供給曲線による「価格決定」のメカニズムを理解させるうえでの大事な伏線となる。

普段何気なく行っている買い物シーンを想定させ「そういえばいつも商品には価格がついていて、安いとか高いとか判断しているけど、それってどうしてなぜだろう?」「そもそも最初にどうやって決まったんだろう?」という素朴な発想を出発点に「欲しいものを欲しい人が得られる状況を作り出すには、“財”の“配分”を、“価格”をシグナルに行う仕組みが必要なんだ。」と理解させることが重要である。

### 指導展開案③「競争」をどう考えさせるか

「市場」理解の応用である。教科書におけるテレビの例

のように、世の中に存在する商品で複数のメーカーから生産され、販売されているほとんどの商品は何らかの形で“差別化”され、消費者はその魅力の違いに迷うわけである。

例えばスマートフォンを例に挙げる。「みんなは何を基準にスマートフォンを選ぶかな?」という発問で生徒の発言を促したい。OS?アプリ?カメラの画素数?差別化の要素は様々だ。財とその市場の差別化をイメージできると話は「競争」の考え方に持っていきやすい。経済学では差別化の程度で市場を分類することで、競争のあり方を説明する。

“完全競争市場”を生徒に理解させたうえで、それと比較しながら“寡占市場”を解させる。自動車であればトヨタ、ホンダ、日産、三菱などの名前を挙げ「独占ではないけれど一部の企業がシェアを握る事例(日本に多い市場の事例)」を紹介したい。飲料では麒麟、アサヒ、サントリーなどだ。コンビニではどうか?衣料ではどうか?生徒の知っている企業が多数挙がるはずである。会社名を豊富に挙げながら、生徒たちに企業の競争のあり方を、経済学の観点から興味を持ってもらうのがこの単元の目的といえる。

#### 指導展開案④需要と供給の理解のさせ方

“需要と供給”については中学の公民や高校の現代社会などが既に守備範囲になっており、「ビジネス経済」ではその理解を深めていく必要がある。例えば価格の変化が需要や供給の数値にどのように影響するのかというそれぞれの「弾力性」の考えを理解させる。また人の好み(選好)の需要への影響はどうか、などグラフと一緒に生徒と描きながらイメージしていく授業が考えられる。また本書においてアンパンの事例で扱われている“代替効果”と“所得効果”についてもイメージを持たせたい。同時にここは自らの購買行動をモデルに思考でき、毎日の生活に経済学の視点を提供する機会となろう。

#### 指導展開案⑤景気変動の要因の理解のさせ方

経済成長と景気循環を扱う際に強調したいのが「需要ショック」と「供給ショック」の考え方である。考え方の視点を「時間軸」におき、長期的な景気変動に影響を与える「供給面の変動」と、短期的な景気変動に影響を与える「需要面の変動」に注目させる。すでに学んだ「需要曲線」「供給曲線」の考え方を「総需要」「総供給」という形でマクロ経済学の視点からとらえなおし、「景気」にどんな影響を与えていくのかを生徒に

気づかせていくことが狙いである。総需要の構成要素である家計消費、企業投資、政府支出、純輸出のいずれかの減少がマイナスの需要ショックを引き起こし、デフレを生じさせるという観点を伝え、その逆にプラスの需要ショックがありインフレの生成要因を伝えられれば、今日本経済が行おうとしている「インフレターゲット」を経済学の観点から理解することが可能だ。

#### 指導展開案⑥金融政策の考え方

アベノミクスが発表されて1年が経つ現在、金融政策の効果についてはここで高校生たちに是非とも理解させたい。教科書には「金融引き締め」と「金融緩和」が比較される形で客観的に示されているが、実際に日銀がどのように金融緩和を行うのか、2013年年明けからの事例を題材に生徒と考える授業を行いたい。教科書の記述は「ゼロ金利政策」と「量的緩和」で終了しているが、アベノミクスの「第一の矢・金融緩和」については、日本の未来を占う重要事項であり、1年間の学習のまとめにふさわしいと考える。

#### ③おわりに

以上、実際の授業を想定していくつか展開例をご提案申し上げた。まとめるにビジネス経済の授業において一番重要なのは、日常の購買行動や経済現象について、違った角度(社会科学の考え方)から教室で一緒に考えていくという過程だと私は考える。難解な用語を解説し記憶させていくだけでなく、様々な発問から一緒に考えるという展開が有益であり、「言語活動の充実」にも材料となる部分である。

学習を終えた生徒に残したいのは用語などの「記憶」よりも、「経済学の考え方で物事を捉えてみた」という「経験」であるため、各項目に十分に時間を割いて教えたい。教科書がコンパクトにできているため、週2時間の授業であっても1時間で2ページずつ進めば終了することになる。

“普段の生活”を学習対象とする本科目では、今まで以上に生徒が主体的に発言・参加する授業展開を企画実行することが可能だ。その際、「どのような指導方法が効果的であったか」「どんな事例で導入を行ったらうまくいったか」などは先生方の様々なアイデアから生まれていくと考えられる。指導事例を情報交換・共有しながら、この科目を深めていけるはずだ。実教出版の教科書や指導書を羅針盤とし、楽しい授業展開が生まれていけば、と考えている。